

## 令和 6 年度 【 学園研究費助成金 &lt; B &gt; 】 研究成果報告書

学部名 現代マネジメント学部

フリガナ ミヤシタ トアリ  
氏名 宮下 十有

研究期間 令和 6 年度

研究課題名 360 度カメラによる場の記録と共有一星が丘を中心とした撮影・上映のワークショップから

## 研究組織

|       | 氏名     | 学部         | 職位  |
|-------|--------|------------|-----|
| 研究代表者 | 宮下 十有  | 現代マネジメント学部 | 准教授 |
| 研究分担者 | 亀井 美穂子 | 情報社会学部     | 教授  |
|       |        |            |     |

## 1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

本研究は、360 度カメラを星ヶ丘ボウルの解体現場の現場と本学内外のイベントに導入し、ヒト・モノ・景色が変化する場に持ち込み撮影、共有を図るワークショップを企画・実施する。この研究により、星ヶ丘で実践することで、デジタルアーカイブへの理解を深め、映像記録とその活用による文化醸成への貢献への可能性を示すことを目的とする。本研究の背景として、スマートフォンをはじめとする情報機器、映像記録機器の普及、SNS の情報共有が進み、多くの人にとって映像を撮影・共有することが日常化している一方で、実際の市民生活レベルではコミュニティでの自発的な撮影や共有は難しい。当該研究を進めることで、映像記録の実践と共有が継続的实施できる仕組みづくりにもつなげる。

## 2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

本研究では代表者である宮下が、関連企業・コミュニティの周辺店舗より協力を得て 2023 年 12 月より撮影し、その映像資料を代表者が管理、保存している。採択後、星が丘ボウル解体工事現場での 360 度映像の撮影・保存を継続して実施する。撮影時には、記録に適切なカメラの検討も行う。また、映像共有にあたっては、のワークショップを実施する。また、代表者および分担者の亀井が参加する日本教育メディア学会の研究会、ICoME (International Conference for Media in Education) 等での発表時に、現在の研究の取り組みとして紹介、また、学部紀要論文に投稿し広く取組について周知を図る。

### 3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

本研究は、星が丘地区の中・長期的変化の映像記録と共有を図るものである。  
星が丘ボウルの解体とそれに伴う再開発については、2025年2月においても、現在進行形で進んでいることであり、諸々の調整が必要なことから、初年度は、大学および関連組織・関係者によるワークショップの実施となった。

今年度はそのうちの初年度として、以下の項目に取り組んだ。

#### ①星が丘ボウル工事現場での360度映像の撮影 (2024年-2025年2月以降も継続) :

代表者である宮下が、関連企業・コミュニティの周辺店舗より協力を得て2023年12月より撮影し、その映像資料を代表者が管理、保存している。2024年度は、7月に工事現場に直接見学・撮影、その後、現代マネジメント学部の4F、5Fから撮影を実施している。撮影するカメラの設置は、「研究利用のため設置」の旨、サインを掲示し、明示的な映像記録を進めている。2月現在も継続して実施しており、今後も撮影・保存を行う。

#### ②360度映像共有のワークショップ (2025年1月28日ワークショップ実施) :

記録した映像は関係者間でクラウドドライブを利用し、共有している。2025年1月28日に関係者複数名と映像共有のワークショップを実施した。ボウリング場に関わった人々にとっての、閉館の時、内部見学、解体時のそれぞれの映像を共有しながら、対話を進めるワークショップとなった。この時の様子は学生とともに記録した。

#### ③学会・研究会、論文等での本研究の研究発表

日本教育メディア学会の研究会、ICOMe (International Conference for Media in Education) における代表者・分担者の学会発表時に現場で取り組んでいる紹介した。また、学部紀要にも投稿し、2025年3月発行される予定である。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

|         |               |          |       |
|---------|---------------|----------|-------|
| ①360度映像 | ②コミュニティ・アーカイブ | ③地域の映像記録 | ④映像共有 |
| ⑤       | ⑥             | ⑦        | ⑧     |

### 5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

研究成果としては、代表者・宮下と分担者・亀井の連名で学部紀要に以下の論文を投稿している。

宮下十有・亀井美穂子 地域の記録映像の撮影と共有の試み (1) 一星が丘ボウルの解体前と解体工事の撮影を中心に一 相山女学園大学情報社会学部紀要 2025.3 (発行予定) 1

また、これらの実践については、2025年1月28日の映像共有ワークショップの中で、関係者との合意をとり、継続的に記録撮影を行うこととなった。加えて、星が丘ボウリングの元スタッフなど関係者への個別のインタビューも実施し、さらに丁寧な情報蓄積を図りたい。